

平成 26 年度 第 1 回長野市総合計画審議会 会議録

日時：平成 26 年 4 月 30 日(水)

15 時 00 分～16 時 45 分

会場：長野市役所 第二庁舎 10 階 講堂

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、これから平成 26 年度第 1 回長野市総合計画審議会を開会いたします。

私、企画政策部主幹の横山と申します。よろしくお願いいたします。

本日の会議であります。本市の指針として、公開で開催することとしてまいりますので、御了承ください。

ここで、資料の確認をお願いしたいと思います。本日の資料は、事前にお送りしました資料が 3 点ございます。

平成 26 年度 第 1 回長野市総合計画審議会 会議次第、平成 26 年度 第 1 回長野市総合計画審議会 資料集、平成 26 年度版 第四次長野市総合計画 実施計画（主要事業計画）になります。不足の資料等がありましたら、お近くの事務局職員にお申し付けください。

また、本日の会議に、高木亜矢子委員、酒井哲夫委員、宮前肇委員からご欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

それでは、会議次第に沿い、進行いたします。

はじめに、総合計画審議会 藤沢謙一郎会長からご挨拶をお願いいたします。

2 会長あいさつ

(藤沢会長)

新年度を迎え、ご多忙の中、お集まりいただき、ありがとうございます。

お忙しい中、人口減少時代に対応したまちづくりについて、ご意見を提出いただき、ありがとうございます。

去る 3 月 28 日、これまで委員の皆様からいただいた数多くのご意見を取りまとめたうえ、審議会を代表して、私と小林副会長とで、市長と意見交換を行いました。

加藤市長からは、概ね肯定的に受け入れていただくとともに、審議会委員のこのような取組に対して労いの言葉をいただきました。

本日は、委員の皆様からのご意見をもとに、市長から伺った意見も参考にしながら、「人

口減少時代に対応したまちづくりに関する提言（案）」を作成しましたので、その内容について、事務局から説明があります。

本日も限られた時間ではありますが、活発なご協議をお願いいたします。

3 自己紹介

(事務局)

ありがとうございました。

次に、次第3の自己紹介に移ります。

審議会委員の皆様につきましては、交代等がありませんでしたので、本日のご紹介は省略させていただきますが、本日の会議資料の資料集43ページには、委員の皆様の名簿を掲載しております。

職名につきましては、委員就任時のもので掲載していますので、ご了承ください。

次に、4月1日付けで長野市部局長及び事務局職員に人事異動がありましたので、資料集44・45ページをご覧ください。

それでは新任職員をご紹介しますので、新任の部局長から名簿順に自己紹介をお願いいたします。

— 新任部局長及び事務局職員 自己紹介 —

4 議事

(事務局)

それでは、審議に移らせていただきますが、審議の時間について、事務局としましては17時00分を目途にお願いしたいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。

また、議事において、委員の皆様が発言される場合は、お手数ですが、挙手していただき、議長の指名でお手元にマイクをお持ちしますので、お名前をおっしゃってから、お座りになったまま発言することをお願いしたいと思います。

なお、議長につきましては、長野市総合計画審議会条例第6条の規定により、藤沢会長をお願いいたします。

(藤沢会長)

本日の議事に入ります。

はじめに、次第の4の(1)第四次長野市総合計画 実施計画について、議事とします。

事務局から説明してください。

(事務局)

第四次長野市総合計画 後期基本計画 実施計画について、ご説明いたします。

お手元の「平成 26 年度版 第四次長野市総合計画 実施計画（主要事業計画）」をご用意ください。

－ 資料に基づき説明 －

説明は、以上です。

(藤沢会長)

平成 26 年度版 第四次長野市総合計画 実施計画について説明がありました。

実施計画は、後期基本計画の実現に向け、市として取り組む主要事業等をまとめたもので、重点施策を中心に説明がありました。

ご意見やご質問があれば、お願いいたします。

【意見・質問なし】

特にご意見・ご質問がなければ、「第四次長野市総合計画 実施計画」については、以上のとおりとしたいと思います。

続きまして、次第の 4 の（2）人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言（案）について、議事とします。

事務局から説明してください。

(事務局)

人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言（案）について、ご説明いたします。

お手元の資料 1 ページをご覧ください。

－ 資料に基づき説明 －

説明は、以上です。

(藤沢会長)

人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言（案）について 説明がありました。

3 月 28 日に、私と小林副会長が、これまで審議会で行った意見交換でのご意見や、2 月

に皆さんから提出いただいたご意見をまとめ、審議会を代表して市長と意見交換を行いました。その際に市長から伺ったご意見も参考にして、事務局の方で本日の提言（案）をまとめていただきました。

本日、皆さんからご意見を伺い、最終的な提言としてまとめたいと考えています。
ご意見やご質問があれば、お願いいたします。

（市川委員）

この資料は、公開されるのでしょうか。

（藤沢会長）

人口減少時代が到来し、将来の長野市のすがたというものをイメージした上で重要となる施策を、第五次総合計画に盛り込んでいただきたいと思います。そのために、審議委員の皆さんから、人口減少時代に対応したまちづくりに関するご意見をお聞きしたというのが今回の趣旨なので、今の段階で公開することはないと思います。

（市川委員）

資料を審議会だけで留めておくのはもったいないので、市民にも公開していただきたいと思います。

（事務局）

市長への提言後に、ホームページ上で公開したいと思っています。

（宮下委員）

資料集4ページ以降に、理想のまちのすがたがまとめられていますが、30年後を想定した理由はあるのでしょうか。

今回出された意見が338ありますが、30年後を想定するのであれば、もう少し精査されて具体的なイメージがわくのではないかと思います。

（事務局）

長野市の総人口は、今後30年間で約8万人減少し、約30万人になることが見込まれています。この前提を基に、30年後という表現をしていますが、30年経ったときのまちの様子というよりは、30年後までに実現したいことというイメージで捉えていただきたいと思います。

（宮下委員）

審議会の中で、「30年後」が共通認識であることが重要だと思います。30年間で実現し

ていく目標をここで設定するというのであれば、そういった視点で今回の意見を考えればよいと思います。

(北村委員)

30年後のことも非常に大切ですが、今抱えている少子化や他県への大学進学の問題など、少しでも早く対策を取っていかなくてはならない急ぎの問題もたくさんあると思います。

(藤沢会長)

今回出された意見をまとめて、ひとつのキーワードができればよいと思っています。そして、あと3年で第四次総合計画の期間は終了しますが、第五次総合計画の都市像のイメージとして反映していただきたいと思います。

(谷委員)

現在の審議会委員の年齢構成を見ると、若い人が少ないと思います。もっと、若い人の意見を入れたいので、次期の審議会では、年齢構成について考慮していただきたいと思います。

(小林副会長)

谷委員さんからの意見は、そのとおりだと思います。

総合計画審議会だけではなく、長野市の他の審議会でも、年齢の高い方が委員になっています。年齢構成については、市長との意見交換会の時に、私から市長に申し上げました。市長からは、今後検討していくというお話を承ったと感じています。

この審議会では、将来のイメージをつくっていきたいという会長のお話でしたので、たくさんの方のご意見が出たということが大変貴重なことだと思います。そして、委員が意見を出し合って、今ここで協議されていることが重要なことだと思っています。

ただ、4月の人事異動で、部長や事務局の職員が大きく変わってしまい、今まで共に考えてきた市の皆さんと一緒に提言することができないのが、とても残念です。

(藤沢会長)

委員の年齢構成や男女の比率については、市の方でもご苦労されていると思いますが、若い人が平日昼間の審議会に参加することは難しい社会状況にあると思います。どういう形式を取れば、そういったことが解決できるのか考えていかなくてはいけないと思います。

後期基本計画を策定する際のワーキンググループには、公募で若い人にも積極的に参加していただき、非常に活気がありました。参加して良かったという感想もあったので、そういう形で盛り上がっていくことが大事だと思います。今後、審議会がうまく機能していくための大きな課題なので、ご努力いただきたいと思います。

(宮下委員)

338 の意見の中には、長野市だけでなく、全国的に共通して言えることがたくさんあります。今回、提言としてひとつにまとめるならば、全国的に課題になっていることをあえて取り上げる必要はないので、長野市が重視している問題を取り上げるべきだと思います。

(藤沢会長)

市長との意見交換の際も、ひとつの自治体に留まらず、全国的に同じ問題を抱える中で、長野市が単独で取り組むよりも、広域的に取り組むべきものもあるという話題になりました。

どこに住んでも、安心安全に生活できることが必要だと思うのですが、それについて国任せにして、長野市の対策が遅れてしまっているといけないので、連携をより強くしながら、長野市独自の対策も考えていければ良いと思います。

(市川委員)

たくさんの意見が出ましたが、これから提言に向けての進め方はどうするのでしょうか。どの部局で進めていくのですか。

(藤沢会長)

今の段階では、担当部局を決められない部分もあると思います。今回は、第五次総合計画を策定する際に、都市像のキーワードの参考になるものを提言していくイメージです。

(市川委員)

実際に実施するときは、部局間で押し付け合いにならないように、連携を取って進めていただきたいと思います。

(事務局)

藤沢会長さんがおっしゃったとおり、具体的な施策として、実施する内容がはっきり決まるときには、担当部局も決まってきます。複数の部局で担当する場合には、当然連携が必要になると思います。

(宮下委員)

長野市に特化した問題を取り上げるという視点でみていくと、「長野市らしい」とか、「長野市の魅力をいかした」といった表現が出てきますが、「長野市らしさ」とは、それぞれで感覚が違うと思います。

全国の移住したい都市ランキングで、長野市は上位にあるので、他県民からみた「長野

らしさ」という視点を入れた方が良いと思います。それがわかる資料があれば、考える際の参考になるのではないかと思います。

(事務局)

今すぐに提示できる資料はありませんが、貴重なご意見をありがとうございます。

「長野らしさ」というものを、長野市の外から見るという視点も必要だと思うので、参考にさせていただきます。

(中村委員)

人口減少は、どこでも起こることなので、長野市に住んでいる人が外に行かないようする対策や、都会に行ってしまった人が長野市に戻ってくるような対策が必要だと思います。

合併によって市域が拡大していくと、地域力がなくなってしまいます。若い世代の人たちが、その地域に残れることが第一条件だと思います。

都会から人を呼び寄せる対策を、長野市として考えていただきたいと思います。定年した人たちは、年金で暮らせますが、若い世代の人たちだと、雇用の対策も必要になります。

地元にいられるということを理想として、長野市の良さを小さい時から家庭でも伝えていくことが大切だと思います。

(谷委員)

今回の提言内容は、第五次総合計画にいかすということですか。中には、すぐに着手しなくてはいけないものもあると思うのですが、平成27年度予算に反映できないのでしょうか。

(市川企画政策部長)

現在の第四次総合計画は、平成28年度までの計画になります。平成29年度から、第五次総合計画をスタートさせるために、本年度の秋くらいから審議を始めなくてはなりません。

人口減少時代の中で、人が育ち、企業が育ち、長野市の存在感を示すといった視点で出していただいた今回の提言を、第五次総合計画に盛り込みながら、それぞれが検討していくことが大きな柱となります。

今は、第四次総合計画に基づいていろいろな事業が進められているので、提言そのものを平成27年度の予算編成に反映すべきとは考えていません。

ただ、各担当課が日々情報収集をし、必要なものを施策に取り入れていくという姿勢は大事だと思います。

(島田委員)

先ほど、若い人の審議会への参加が少ないというお話がありましたが、私は自営業なので、企業で働く人よりも時間を取りやすい状況にあります。

企業で働いている人たちにも、それぞれの考えがあると思うので、そういう方の意見を反映させるために、審議会の土日開催を今後は検討すべきだと思いました。

私の友人には、IターンやUターンで長野市に来た人や、長野市に住んでみたいと考えている人たちがいるのですが、仕事がないということが一番の問題になっています。働く場をつくるということが、若い人の人口を増やし、長野市で子育てをしてもらうことに繋がっていくと思います。それを踏まえて、IターンやUターンの誘致についても考えていかななくてはいけないと思います。

前回の審議会でも、キャッチフレーズを考えた方が良いという意見があったと思うのですが、それは5月の市長への提言の時までに考えるのですか。

(藤沢会長)

それについては、第五次総合計画の審議会委員が中心となって考えることだと思います。

(内山委員)

私は、今回キャッチフレーズを考えて、意見として提案しました。キャッチフレーズを基に、どのようなことをしていくべきか考えるのもひとつの方法だと思います。

今回、理想のまちのすがたに関する意見を出す際に、子どもが結婚して、孫ができて、という自分の30年後の生活を想像しながら、これから30年の間に行われていけばいいなということを提案させていただきました。長野市ならではのことはどんなことなのかを考えて、具体的な取組についての意見も出させていただきました。

(猪俣委員)

今回、すばらしい意見がたくさん出されたと思いますが、30年後のまちのすがたについて、理想は理想だと思います。具体的な取組の中にも、理想的なものがけっこうあると思います。

私は、本業の建築関係の仕事をしながら消防団をしているので、30年後のまちのすがたを考えても、建築や消防についての現実的なことしか思いつかず、なかなか理想的なものが出てきませんでした。

安心して暮らすとか、地域をつくるということについて、建築の観点から考えると、30年ほど前に長野市にたくさん団地がつくられて、そこに住んだ若い人たちも、今はお年寄りになってきています。団地の中にメインストリートがあり、かつてはそこにいろいろなお店が並んでいましたが、今はほとんどが閉まっている状況です。お年寄りが歩いて買い物に行くのは大変なことです。

現在、大きな道路の周辺には、お店がたくさんできていますが、団地の中はそうではありません。現状をみると、理想的なものだけではなく、先を見据えた計画、現実を見つめた計画が必要だと思います。

(藤沢会長)

総合計画と個別計画の関連が大事であり、総合計画の内容を実現するために、個別計画が機能しているかが問われると思います。

皆さんからいただいた意見を基本として、本日の審議会を踏まえ、必要に応じて補足をしていただき、私たちの任期が終わるまでに市長へ提言したいと思います。その後、提言をホームページ等に公開し、市民が見られるようにしていただきたいと思います。

今回の提言は、第五次総合計画の策定に反映するための、現段階でのご意見という形で扱わせていただきます。

ほかにご意見・ご質問がなければ、人口減少時代に対応したまちづくりに関する提言(案)については、以上のとおりとしたいと思います。

次に、次第の5 その他 (1) 今後の予定について、事務局から説明してください。

(事務局)

事務局から、今後の予定について、ご説明いたします。

本日お集まりの審議会委員の皆様のご任期につきましては、本年7月19日まででございますが、本日の会議を、現行の委員の皆様による最後の会議にしたいと考えております。

藤沢会長、小林副会長におかれましては、本審議会の集大成とも言える、市長への提言を現委員の任期中に予定していますので、よろしく願いいたします。

今後の予定については、以上です。

(藤沢会長)

事務局から説明がありましたとおり、現行の委員による会議は、本日が最後の会議になるということです。

ここで、せっかくの機会ですので、委員の皆様から一言ずつ、審議会委員としての感想や印象に残ったこと、市政に対するご要望など、自由にご発言をいただきたいと思います。時間の関係もありますので、恐縮ですが、お一人3分程度でお願いします。

それでは、着席順に、市川委員から順番にご発言をお願いできればと思います。

(市川委員)

このような大きな審議会に参加させていただき、長野市全体のことがわかって勉強になりました。

今後とも、長野市を良くまとめていただき、市民にサービスが行き届くような審議会に

していただきたいと思います。2年間、お世話になりました。

(猪俣委員)

長野市に、このような審議会があるということを全く知りませんでした。いろいろなことを勉強させていただき、ある程度わかったと思います。

今までは、身近な人からの相談に乗るということはしてきましたが、何年も先のことを見据えて、どのように計画を進めて理解していけば良いかということが難しかったです。この審議会のことを、まだ本当には理解できていないのが現状ですが、大変勉強になりました。ありがとうございました。

(内山委員)

さまざまな角度からの考えを聞くことができ、その上で自分の思いや、自分にできることは何なのかということを考えるようになりました。2年前とは、違う考え方ができているのかと思います。たくさんの方に気づかせていただき、ありがとうございました。

最後に、市への要望が2点あります。

まず、PTAの立場から、個人的には子どもが10歳くらいになるまでは、どっぷり子どもと一緒に過ごしてほしいと思いますが、それができない諸事情もあり、働くお母さんたちがたくさんいます。参観日や学級懇談会に参加したいのに、休みが取れなくて参加できない人もいますので、休みが取りにくい職場環境の改善に、市として協力していただきたいと思います。

次に、子育て、子育ちを応援する立場から、こども未来部に期待をしています。医療費無償の年齢を引き上げたり、夜間保育への人とお金の補助など、すぐに考えていただきたいこともあります。困っているご家庭への温かいご支援をお願いします。

(大日方委員)

審議会に参加し、いろいろな方のご意見を伺って、勉強させていただきました。

私は、鬼無里で活動してきましたが、日本全国の繋がりを辿って、地域の活性化について聞いてみたら、良い目標、良い計画、キャッチフレーズを持つことの大事さと、住民たちが地元の生活を楽しみ、その地域に生まれて良かったという思いを持っている地域が、地域おこしに成功しているということがわかりました。

私は、ここ3年ほどの地域おこしの活動の中で、自虐的に地元を評価してはいけないということを感じました。鬼無里で、地元の食を大切にしようという「食の文化祭」を開催したのですが、地元住民以外の人と交流する中で、鬼無里の素晴らしさを感じてきています。地元の評価が上がり、住民たちが鬼無里に自信を持つようになりました。

この計画に掲げた施策や目標は大切ですが、地元で自分たちの生きがいとなるものを探し出すことも大切なので、住民主体となるような市政にしてほしいと思います。住民が、

自分も参加しているという意識を持てるような地域づくりを大切にしていきたいと思っています。

(北村委員)

2年間、いろいろと勉強させていただき、ありがとうございました。

先ほど、小林副会長さんからお話があったように、各部の部長さんたちには資料等をいろいろと作っていただいて、私たちの知らない市政というものを知ることができ、大変ためになりました。私が携わるのは農業ですが、他部門の人とも交流が取れたことで、市政の状況がわかって良かったです。

ただ、事務局の方たちとは、懇親会の時に、一市民としてじっくり話ができましたが、部長さんたちと直接お話する機会はあまりなかったので、腹を割った会話がもう少しできれば良かったと思います。

(宮下委員)

長野市には、投票で選ばれた市長や市議会議員、市役所職員、審議会委員、そして市民がいるわけですが、いろいろな立場の方が市政を動かしているということを、この審議会に参加して初めて知りました。

また、それぞれの立場の考えが、うまく連携できているのかということに疑問を持ちました。

せっかく、いろいろな分野の方が参加する審議会なので、この提言を市政に有効にいかしていただきたいと思います。そして、いろいろな立場の方が連携を取れるような市政であれば良いと思います。ありがとうございました。

(藤本委員)

2年間、ありがとうございました。

自分の今までの活動や、現在やっていることや、社会に対して感じていることを、皆さんにわかっただけのようにお話してきましたが、うまくできたかわかりません。

私は、児童養護施設の運営の中で、世の中のいろいろな問題に向き合っていますが、今後30年で虐待相談等がなくなって、安心して暮らせる長野市になってもらいたいと思っています。

(中村委員)

2年間ありがとうございました。

信州新町から参加して、長野市の全体の仕組みがわかって良かったと思います。大きな会議で圧倒されてしまい、あまり良い意見を言うことができなくて申し訳ありませんでした。

県外の方にも、善光寺さんの知名度は高いので、全国から長野市を訪れてもらえるようなPRをしていただきたいと思います。

多くの方が車で長野市を訪れるので、インター周辺の整備について、今後考えていただきたいと思います。

(谷委員)

私は、街中に住んでいるので、どうしてもまち目線で考えてしまう部分がありました。また、そろそろ後期高齢者になる年齢の私が、長野市の将来についての意見を言うことに、この2年間疑問を感じていました。

(島田委員)

2年間ありがとうございました。

いろいろな立場の方のご意見をお聞きして、本当に勉強になりました。

少子高齢化や人口減少について漠然とは知っていましたが、それを実感した上で30年後を考えるということが今までなかったので、先を見越した幅の広い考え方をしなくてはならないということも勉強させていただきました。

私は、知り合いからの紹介でこの審議会のことを知って委員に応募させていただきましたが、私の友人にも、審議会委員に興味を持っている人や、市に対して意見を述べる場があるなら行ってみたいという人がいるので、若い人が参加できる場を設けていただきたいと思います。

市政への要望のひとつとして、最近、長岡市から移住した人が私の働く会社に入ったのですが、長岡市は働く人に優しい市ということを打ち出しているようで、夜9時まで市役所が開いているそうです。働いている人は、仕事後に市役所に行くのがなかなか難しいので、長野市でも働く人に優しい行政というものを考えていただきたいと思います。

(小林副会長)

2年間ありがとうございました。

私は、この審議会が始まった頃、若い方の意見がとおるような審議会にさせていただきたいと、事務局の皆さんに申し上げました。この2年間、年代に関係なく、皆さんの真摯な意見をお聞きできて、自分自身も大きく成長させていただきましたし、皆さんもそうだったんだという思いがあります。このような場を与えていただいたことに感謝します。

また、藤沢会長さんには、委員一人ひとりの意見を丁寧に聞いていただきました。藤沢会長のもとで、このような会議に参加できたことに感謝します。

長野市の行政の方には、市民の力を信じていただき、意見を聞いていただきたいと思います。今後も、30年後、100年後の長野市について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

(藤沢会長)

委員の皆様から、それぞれご発言をいただきありがとうございました。

私は、後期基本計画の策定の時から参加させていただきましたが、出来上がったものが、市民にどのように理解され、活動にいきっていくのかということを中心に心配し、また期待をしていましたが、なかなか難しいということがわかりました。

長野県の総合5か年計画についてのアンケートを見ると、計画の存在を知っている人はあまり多くないし、計画の中身を知っている人はほんの僅かで、残念だと感じました。

長野市でも、各自治協が出前講座等を活用して、行政の方が一生懸命やっている姿を、市民により理解してもらうことが必要だと思いました。

今回、提言という形で皆さんの意見をお聞きしましたが、時間が限られた中で、なかなか腹を割った話ができなくてご迷惑をおかけしました。

2年間、こうして会長を務めることができたのも、皆さんのご協力があったことなので、改めてお礼を申し上げます。今後も、長野市の発展のために、それぞれの場でご尽力いただければありがたいと思います。私は、地域のことに関わるのは数十年ぶりだったので戸惑うこともありましたが、大変勉強になりました。2年間ありがとうございました。

それでは、本日の議事については、以上にしたいと思います。

事務局に進行を返します。

(市川企画政策部長)

一昨年7月に、委員にご就任をいただいてから、後期基本計画の進捗状況の管理、そして人口減少時代に対応したまちづくりに関する議論・検討など、鋭意ご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

本日ご議論いただきましたご提言の内容を踏まえ、構成やスケジュールは未定ですが、今後は第五次総合計画の策定にあたることとなります。

ご退任後も引き続き、本市のためにご指導をいただきますようお願い申し上げます。

(事務局)

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上で、平成26年度 第1回 長野市総合計画審議会を閉会いたします。